

土木工学・建築学委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会  
(第 25 期・第 5 回) 議事要旨

開催日時 2022 年 3月15日 (火) 10:00-12:20

開催場所 遠隔会議

出席者 赤松佳珠子, 伊香賀俊治, 伊藤香織, 大岡龍三, 小野悠, 斎尾直子, 佐々木葉, 定行  
まり子, 高橋良和, 竹内徹, 竹脇出, 田村和夫, 前川宏一, 南一誠, 三輪律江, 望月  
常好, 山本佳世子, 渡邊朗子

配付資料

- 資料 0 議事次第
- 資料 1 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会 (第 5 回) 議事要旨
- 資料 2 SWG2(建築)+5(地域)の進め方
- 資料 3 SWG3 (環境) 地球に優しいこれからの社会、産業、交通
- 資料 4a 都市住宅\_特集\_
- 資料 4b 日本女子大学紀要 27
- 資料 5a AIJ 社会ニーズに対応した「特別調査委員会」意見交換会
- 資料 5b 新型コロナ対策に関する分かりやすい Q&A

議題等

1. 各 SWG の活動報告 (各 SWG 幹事)

・竹脇幹事(SWG1): 海外からのアンケート協力に対するお礼の対応をした。欧米では地域的な学術会議が開催されるようになってきているが、ハイブリッドのやり方についてはまだ課題があるように思う。最適なハイブリッド国際会議の手法について調査してみてもどうか。

・伊藤幹事・斎尾幹事(SWG2+5):今までに作成したマッピングに沿って感染症拡大で起こりつつある社会の具体的現象に関する仮説を立て、それを裏付ける事実を収集する作業を始めている。論点を整理するシンポジウムを企画したい。上記仮説を補強するような事例集めに協力を願いたい。

・伊香賀幹事(SWG3) : SWG からの報告事項はなし。AIJ 脱炭素都市建築 TF の活動紹介および建設物省エネルギー法に対応した建設業界、不動産業界の取り組みを紹介いただいた。

・山本幹事(SWG4) : SWG からの報告事項はなし。個人情報に関する特性の分類整理を続けている。世代による情報の捉え方のギャップについても反映させたい。ボランティアベースで情報収集している。

・高橋幹事(SWG5)：SWG からの報告事項はなし。関連事項として、公共交通におけるコロナ禍の影響として、JR西日本における過去最大の減便の実施や京都市営バスにおける営業係数の公表（去年は黒字路線が一つも無くなった）などの紹介があった。

## 2. 話題提供：

・定行まり子委員より、2020年～2021年における感染症蔓延下における学生および家庭内の家族の生活スタイルに関する詳細な調査結果に関する研究報告があった。また、感染症下での保育園の運営状況等に関する調査結果の紹介があった。

- ✓ 学生を対象とした調査に基づく住まいの利用時間・行為の変化
- ✓ 保育施設への影響（新型コロナウイルス感染症のひとり親家庭への影響）
- ✓ 住居機能の外部化・社会化と子供の住環境。グローバル化、情報社会において、工業社会における核家族（家庭）から、多様な個人・家族としての集合体へ（共助）
- ✓ 家族全員が各々リモートワークしなければいけなくなったなかでの、住まいの使われ方について
- ✓ 核家族では外部化（アウトソーシング）が進み、狭い家でもよくなったが、いまはどうか？地域に外部化に対応できる資源があれば、それを利用する。サービスする人もその資源と考える。
- ✓ 地域毎の特殊解と全国的な一般解。基準の閾値もコミュニティ単位で決められればよいが、そこに科学的データを。

・地域における特性はあるか。田舎では外部に展開しての受講・育児・労働等も可能かと思われる（田村）。あると思われる。今後調査する（定行）。地方における住宅の機能の外部化や、街ぐるみの対応もあり得るのでは(三輪)。

・大岡龍三委員より、日本建築学会特別調査委員会「ウイズ／アフターコロナに適応する建築・都市に関する特別調査委員会」に関する意見交換会報告に関する紹介があった。

・本分科会と同様に環境、計画、都市空間、社会空間の4つのWGを構成し、委員をミックスしながら議論を行っている。

・感染予防に関しては、建築計画、行動パターンに応じた対策の必要性を整理。

・感染症蔓延下における建築物のモードチェンジの考え方。都市圏の規模により必要な施設が異なる。

・感染症対策、省エネルギー・設備設計におけるBIMやAIの利用可能性。意匠が使っているBIMを設備にそのまま使うのは難しい。流れとしてはBIMへの統合が進んでいくと思うが、組織としてはBIMの採用が進んでいるが、設計段階から取り組むのは過剰という意見もある。

3. 令和4年度に向けた活動方針についての意見交換をおこなった。

#### 4. その他

次回分科会は 2022 年 6 月を目処に開催すること、その際に防災とコロナの関係について話題提供する委員を募ることが確認された。

以上